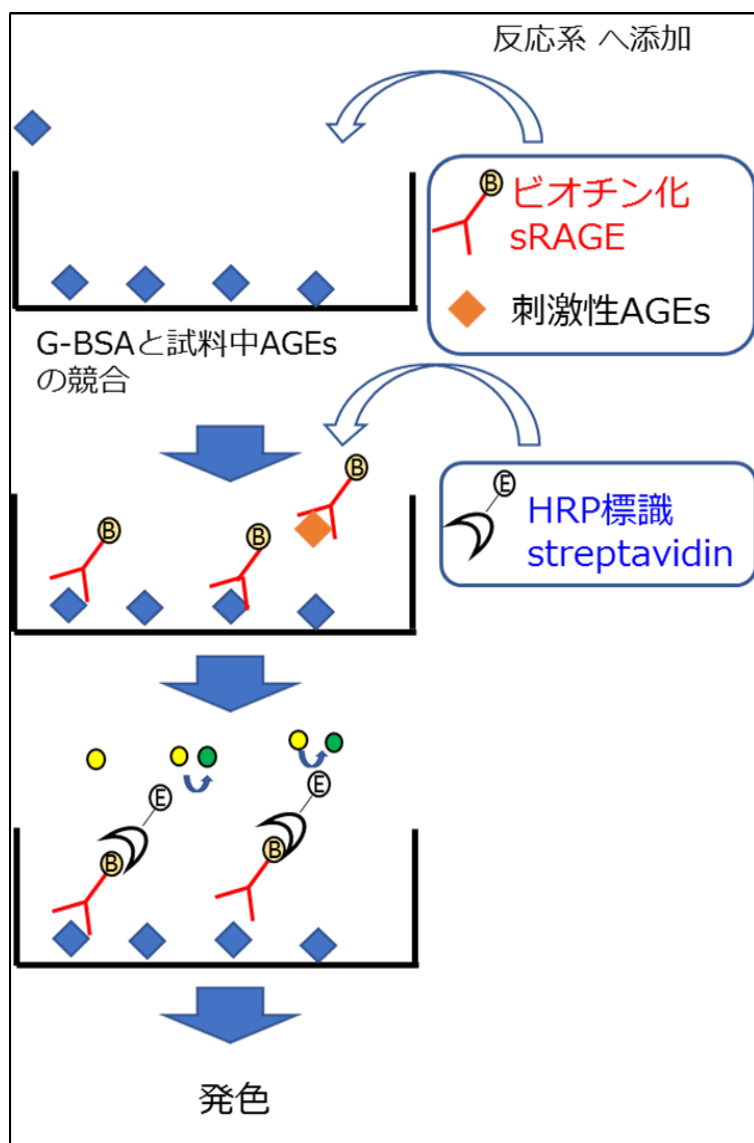


AGEs測定キットの開発

— 加齢性疾患危険因子の包括的検出 —

成果の特徴

- AGEs（終末糖化産物）の中で“刺激性AGEs（生体内で加齢性疾患の危険因子となる悪玉AGEs）”を測定するキットの開発しました。
- 測定原理は、生体の認識機構に基づいており、生体内で作用する刺激性AGEsを広範囲に測定することが可能です。



刺激性AGEs測定原理

試料中のAGEsとキット中の96穴プレートの各wellに固相化された補足用AGEs(G-BSA)のsRAGEへの結合を競合させ、刺激性AGEs量は、吸光値の減少により定量する。

sRAGEは1分子のビオチンが付加されており、プレートに固相化されたG-BSAに結合したsRAGEは、HRP標識ストレプトアビジン(HRP-SA)と反応させた後、HRPの基質を添加することにより、450nmの吸光値により定量可能である。

成果の活用

本研究成果は、試作品の作製/評価が進行中です。

また、食品産業、健康産業分野で実用化が期待されます。

関連論文 Scitific Reports 7, 356

関連特許 PCT/JP2015/005017,特願2019- 29894